

民族舞踊文化



No.15

2003年6月3日

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

財団法人 黛民族舞踊文化財団

〒107-0052 東京都港区赤坂3-10-3 黛ビル4F TEL. 03-3583-3633(代)
FAX 03-3583-3639



韓国（水原中小企業支援センター）コンベンションホールにて日韓舞踊交流

2003年の

民族舞踊文化交流

民族的あるいは宗教的偏見に源を発する、戦争の危機をはらんだ世界の情勢は、なお晴れやらず、毎日われわれの関心を国際問題の報道に引きつけています。しかし文化や芸術の領域では、そこに見られるような対抗意識や不寛容な態度、あるいは排他的な心情は、全く無用です。

異なった文化や異質な美意識あるいは美の表現に接したとき、それを排除し拒否することなく、受けとめ、包容することにより、われわれの芸術文化はより豊富で多彩なものとなります。芸術文化は人の心を種として生まれ、育ったものですから、人間性に目覚めた人の心はやがては異種の民族・宗教・歴史にもとづく文化をも受け入れ、評価し、相互の文化をより豊かにしてゆくことができるにちがいないからです。

私どもの舞踊文化財団は、故黛節子先生が指し示され

財団法人 黛民族舞踊文化財団

理事長 犬丸 直

た道にしたがい、今年も民族舞踊文化の交流につとめてまいります。

今年は中国から雲南省舞蹈家協会の第10次訪日代表団を迎えることになりました。今年はスケジュールの中に、新潟県柏崎市における「歌舞伎—綾子舞500年祭」に参加し交流することがふくまれています。歌舞伎という日本の上演芸術の大きく豊かな伝統の基となった綾子舞のあり方を回顧し祝うということは、誠に意義深いと思います。

昨年は、黛民族舞踊文化財団の第7次訪中団が中国雲南省におもむき舞踊交流を行い、また当財団の第二回の大韓民国訪問も行われました。それらを含めて当財団の活動状況を、次頁以下において御報告いたします。どうかつばさに御検討いただき、今後とも絶大な御指導、ご支援を賜りたいと存じます。

黛民族舞踊文化財団

理事長 犬丸 直 先生

平成 15 年 (2003) 春の叙勲

勲二等旭日重光章受賞

当財団理事長犬丸直先生が平成 15 年度春の叙勲で勲二等旭日重光章を受賞されました。先生の永年の御業績に対しての叙勲ですが、我が財団にとりましても大変名誉なことと存じます。ここに財団からも改めてお祝いの言葉を申し述べさせていただきます。

“先生、おめでとうございます。

心からお喜び申し上げます。”



犬丸 直 理事長

黛民族舞踊文化財団大韓民国訪問報告

——ワールドカップ・ソウル国際フェスティバル参加——

(2002 年 6 月 1 日～2002 年 6 月 7 日)



水原市庁舎を訪問した黛民族舞踊団のメンバー

訪韓メンバー

団長	大野 晃		
団員	黛 琉美	黛 智英	
	黛 今日子	黛 莉香	
	黛 真也	平出 圭尹子	
	小池 由美子	森田 明美	



京畿道水原市ワールドカップ支援推進委員会委員長訪問
左より禹済賛委員長、金英実先生、大野団長



市庁舎内で水原市市街模型の説明を聞く団員

5 月 31 日 (金)

6 月 1 日早朝の出発のため、前日ワシントンホテルに宿泊。

6 月 1 日 (土)

9 時 55 分 J A S 2 5 1 便ソウル (仁川) に向う。
仁川空港に 12 時 20 分到着。



黛民族舞踊文化財団による越中おわら節 韓国水原市京畿道博物館にて

韓国舞踊団の出迎えを受け、団員の車に分乗して宿舍、水原のKBSセンターに向う。ワールドカップで国中がわきたっていて車の渋滞に巻き込まれる。

午後5時に仁川ワールドカップ競技場の横の野外ステージに到着。衣裳が届かないこともあって曲目を急遽変更される。

午後8時30分。ややこ踊り、黒田節、花笠踊り、越中おわらの公演。公演終了後、金英実先生に夕食に招待される。はじめての韓国の食事。やっと全員ほっとして宿舍にもどる。

午後12時、部屋割りをして各自衣裳を点検して休む。

6月2日（日）

朝は自由行動。デパートでショッピング。午後は衣裳チェック。午後8時から仁川のウォルミドで金梅子先生の剣舞（チャンム）とその舞踊団の沈清伝（シムチョン）を観劇。金先生のすばらしい演技と、美しい魅力あふれた声の舞踊家たちに感激。午後10時から金梅子先生の招待で沈清伝出演者とウォルミド川辺のさしみ料理屋でごちそうになる。午後12時宿舍にもどる。

6月3日（月）

午前10時に宿舍を出て水原市市庁を訪問。地元記者の取材を受ける。水原ワールドカップ支援推進委員会委員長を訪問。午後2時からソウル市内のホテルで韓国国立舞踊団40周年を祝い、またこれからの国立舞踊団のゆくえについてソウル市内のHOTELで開催されたシンポジウムに出席。その後梨太院（イテウオン）、ウォーカーヒルHOTEL免税店にてショッピング。夕食の後午後6時から国立舞踊団の春香伝を見る。宿舍へもどり明日からの演目について打ち合わせ。

6月4日（火）

午前9時リハーサル会場の水原中小企業支援センター、コンベンションホールでリハーサル後、公演。

午後4時30分 会場—水原駅—ソウル（チョンムロ）韓国の家（KOREAハウス）公演を観賞、舞踊雑誌の取材を受ける。

金梅子先生、金英姫会長、金善美先生の招待を受け、宮廷料理をごちそうになる。



祝い舞

6月6日(木)

午前中は市場でショッピング。

午後3時30分京畿道博物館で公演。

ワールドカップ韓国戦があるので早く踊りをみて、自宅でテレビで応援するという。

W杯に熱狂する。日本ももっと明るく、すべての事に一丸となってぶつかってゆくべきだと思う。

6月5日(水)

午前9時コンベンションホールにてリハーサル。棒踊りの棒に補強の処置。午前11時公演。移動先の京畿道でリハーサル。その後金英実先生、金梅子先生と共に館長室を訪問。

午後3時30分、この日二度目の公演。たくさんのお客様にみていただきうれしい。夕食は創舞後援会の会長のご招待を受ける。



韓国舞踊団によるオァ！チョーウルシゴ！



韓国舞踊団による太平之舞

6月7日(金)

午前11時出発。仁川空港へ。

午後3時30分発のJAS252便で仁川空港を出発。

午後5時45分は無事成田空港に到着。

黛民族舞踊文化財団第7次訪中団日中舞踊交流会

2002年6月12日～6月23日

訪問先：中国雲南省 楚雄市、保山市、騰冲県



楚雄市太陽暦公園

訪中団メンバー

団 長 大野 晃

団 員	黛 琉美	黛 智英
	黛 今日子	黛 莉香
	黛 真也	
	平出 圭尹子	伊藤 みつ子
	岩崎 任代	
	小池 由美子	森田 明美
	大林 克巳	藤原 明人

《黛民族舞踊文化財団第7次訪中団》スケジュール 2002年

- 6月12日（水） 昆明到着後バスにて楚雄市へ
- 6月13日（木） 楚雄市の民族小学校訪問
夜、楚雄影劇院で公演
- 6月14日（金） 太陽暦公園で楚雄州歌舞団と交流会
夜、楚雄影劇院で公演
- 6月15日（土） 保山着。保山市歌舞団による舞蹈詩
「ああ、傈僳（リス）」の公演を見る
- 6月16日（日） 保山市の「五月の花祭り」を見学
- 6月17日（月） 保山師範学校講堂にて交流公演



楚雄影劇院にて大野団長の挨拶

- 6月18日（火） 高黎貢山の山腹を越えて騰冲へ。華僑の里和順郷を見学
- 6月19日（水） 熱海温泉見学
- 6月20日（木） 黛民族舞踊団は保山市歌舞団と交流
- 6月21日（金） 大野団長はシーサンパンナの基諾族（ジノ一族）博物館を訪問
黛民族舞踊団は大理歌舞団と交流
- 6月22日（土） 昆明市にて雲南省舞蹈家協会主催の歓送会

6月12日（水）

昆明国際空港到着。張亜錦、鄧輝、聶華、劉金吾、王恵芬氏が出迎え。張、鄧、聶華さんと共にバスに乗り、一路楚雄に向かう。以後、この3人は我々訪中団に同行する。途中の道路は整備され、極めて快適、昆明の西郊には材木業、瓦屋などが多く見られた。昆明の建築ブームを反映しているのだという。

楚雄到着後雄宝酒店へ。楚雄州政府、文連主催の歓迎宴。



楚雄市前進郷板凳山民族小学校にて
日中民族舞蹈交流会



楚雄市前進郷板凳山民族小学校にて
日中民族舞蹈交流会

6月14日（金）

午前 楚雄市郊外の太陽暦公園を訪れる。公園の施設内で楚雄州歌舞団と交流会。お互いに踊りを教えあう。日本側は花笠踊りを教える。山頂にはイ族の象徴である竜、トラ、ヒツジ等の10本のトーテムがあり、これらはイ族が古代から使用していた日時計を模したものだという。その後公園内でイ族の勇者が登る“剣のはしご”や少女たちの刺繍の様子を見学。

午後 楚雄博物館を見学。恐竜や原人等、はるか昔にこの地方に生息（生活）していた人類の祖先（？）たちにしばし思いを馳せる。

休憩の後舞台稽古。

夜20時から楚雄影劇院にて公演。

6月13日（木）

午前 紫溪山のイ族の郷で歓迎を受ける、300人余りの学童の拍手にむかえられて民族小学校を参観。子供達の舞蹈を見た後、一緒に輪の中に入る。日本側は花笠踊りを演じる。

午後楚雄影劇院にて舞台稽古。

夜20時から公演。

曲目	ややこ踊り	棒踊り
	小原木	越中おわら
	花笠踊り	さいたら節
	黒田節	黒島口説
	祝い舞	



太陽暦公園内にて 楚雄州歌舞団と
日中民族舞蹈交換交流会

6月15日（土）

午前9時 楚雄を出発。大理までは2時間、120キロの距離で快適な高速道路を通行。しかしその先は未舗装。今年末に完成予定の工事中の新路線を横に見ながらその悪路を進む。

夕方 保山市に到着。蘭花賓館に入る。当地の文連の人達と会食の後、保山師範学校講堂にてリス族の伝説に題材を求めた、保山市歌舞団による舞蹈詩「ああ、傈僳（リス）」の公演を見る。



楚雄市前進郷板凳山民族小学校にて

6月16日（日）

この日は朝から保山市の「五月の花祭り」を見学。漢方の生薬、化粧品、食品、お菓子類、携帯電話、玩具、楽器、花木等ありとあらゆるものが通りにあふれている。外観が銅鼓をかたどった建物になっている保山博物館を見学。悠久の歴史の重みを体験する。

夕食後また博物館前にもどり、保山師範学校や保山聾啞学校の生徒たちが演じる舞蹈や歌を観賞。



楚雄市前進郷板凳山民族小学校にて

6月17日（月）

午後 舞台稽古

夜 保山師範学校講堂にて公演。

6月18日（火）

朝、保山を出発。途中タイ族の営む食堂で昼食。

高黎貢山の山腹を越えて騰冲へ。霧に包まれて対向車がほとんど見えないような難所も無事に通過する。騰冲に着くとすぐに華僑で名高い和順郷を見学。毛沢東主席の哲学顧問として有名な艾思奇先生の記念館や郷村図書館としては中国最大といわれる図書館を見学。



楚雄市前進郷板凳山民族小学校にて
子供達から現地の踊りを教わる黛民族舞蹈団員達



保山地方の棚田

6月20日（木）

午後 黛民族舞踊団の7人は保山市歌舞団と交流会を持ち、互いに舞踊を教えあつた。

夜 熱海泊

6月21日（金）

黛民族舞踊団は朝騰冲を出発。大理に到着。

夕方 大理歌舞団と交流会。

大野常務理事と大林調査員は雲南省南部のシーサンパンナに行き当財団が設立の援助をした基諾族（ジノ一族）博物館を訪問。



楚雄州歌舞団と日中民族舞踊交換交流会

6月22日（土）

朝 大理を出発した黛民族舞踊団とシーサンパンナの訪問を終えた大野常務理事と大林調査員が昆明市で合流。

夜 雲南省舞蹈家協会主催の歓送会。

6月19日（水）

朝から熱海温泉へ。騰冲は死火山の上に建設された都市であり、周辺は今でも火山岩を多く産し、温泉も湧くとのこと。

午後 騰冲県幹部活動センターにて舞台稽古。

夜 同所にて公演、



紫溪山のイ族の村にて



保山師範学校にて ややこ踊り



騰冲にて地元テレビ局の取材を受ける
大野団長



保山師範学校にて ややこ踊り



保山師範学校に於ける公演のフィナーレ



保山市の幹部の人達と挨拶する大野団長



保山師範学校の交流公演を終えて

シーサンパンナ基諾族（ジノー族）博物館

訪問記録

基諾族（ジノー族）博物館視察報告

黛節子前理事長の御意志を継いで、当財団も建設のための助成を行った基諾族（ジノー族）博物館は2001年6月無事開館いたしました。

開館以来現地から再三御招待を頂いたにも係わらず、当財団から現地に赴く機会を作ることが出来ませんでした。今回の訪中公演でようやく念願の思いを果たすことが出来ました。途中、本隊と別れて大野晃団長と大林克巳調査員の両名は雲南大学尹紹亭教授の案内で、現地基諾族（ジノー族）の歓待を受けながら基諾族（ジノー族）博物館を見学することが出来ました。

猛烈な勢いで進む近代中国の流れの中で、消えそうになる少数民族の生活形態を、少しでも正しく後世に伝えようとの主旨でした。

「出来て間もないため展示物もまだ充分とは言えない。今後より充実したものにするための努力をするが、何よりも嬉しいのは博物館が出来たお陰で部族民の結束が強くなった」ということでした。



基諾族（ジノー族）の村



基諾族（ジノー族）博物館前庭にて
取材する尹先生（右後姿）



基諾族（ジノー族）の踊り



基諾族（ジノー族）博物館外観
基諾族（ジノー族）の伝統的高床式家屋を模した建物



基諾族（ジノー族）博物館表示板



基諾族（ジノー族）博物館展示風景



基諾族（ジノー族）舞蹈団と挨拶する大野団長



基諾族（ジノー族）博物館展示風景



基諾族（ジノー族）博物館展示風景

黛民族舞踊文化財団大韓民国訪問（第2回）報告

——忠清舞踊祭典参加——

（2002年9月25日～2002年10月1日）

訪問メンバー 黛 琉美 黛 莉香

韓国・忠清地域舞踊教授会会長、清州大学教授の朴再姫先生は、韓・中・日のアジア3国舞踊・根は一つ。東洋日報第7回忠清舞踊祭典百濟芸術再発見は百濟時代の影響を受け与え、韓・中・日が一つの場所に揃い公演

することで意味を深くしている。

9月30日午後7時30分より忠清芸術の傳堂大公演会場で開催されたチュリン大学校李仁淑先生、セジウムパフォーマンスシアター、順天郷大学校錢弘操舞踊団、檀国大学校金恵正舞踊団と日本の黛民族舞踊団（黛琉美・黒田節）、中国北京師範大学田培培舞踊団が公演した。

その後東洋日報趙社長の司会で「韓・中・日アジア3国舞踊の根は一つ」というテーマの座談会。

問い 韓国訪問は始めてなのですか？韓国を見て回った感想は？

・ワールドカップの時見た韓国の若者達の活気にあふれ滲刺とした姿がとても印象的でした。公演においても韓国の人々の芸術に対しての熱意が感じられました。

問い 中国、日本と一緒に公演を企画したきっかけは？

・百済時代、韓・中・日は活発な交流を持っていました。このような経緯からみて東洋3ヶ国の芸術の根源は同じだと見られます。この芸術の根が国別にどのように特殊化してゆくのかを比較してみてもその未来を診断してみようと3ヶ国と一緒に公演できる舞台を用意しました。



黒田節・黛 琉美



忠清道舞踊祭にて韓国舞踊家達と

の影響を受け、東洋舞踊、西洋舞踊の両方の特徴をすべてその中に見ることができます。

・日本の舞踊には歌舞伎舞踊、日本舞踊、郷土芸能、民俗舞踊があります。体の重心を下に下げていく傾向があり、主として手先で雨、風、雪すべてを表現します。民俗舞踊の中には床を足で叩き神仏に祈りを捧げる形態が見えます。日本は学校で舞踊を習うケースはめずらしく、だいたい個人の伝統の脈（家元制度）を引き継いでいます。日本全体を見ても大学の舞踊学科は少なく、公的教育機関は不足しています。

問い 韓・中・日の交流は今後も続けるのですか？そしてこれからの計画についてお聞きしたいと思います。

・毎年一つの場所で踊りの公演を持つ具体的な計画はありませんが、国際交流はもっと拡大していくつもりです。

・90年代に入ってから韓国舞踊の劇場と公演の基盤が確立されました。これから韓国舞踊の公演をより活発化させ、国際社会でも公認されるように制度的システムを整えることが優先課題です。そのことが実現されれば忠北から韓国全体に、そして国際交流ももっと活発になってゆくことと思っています。

問い 東洋3ヶ国は類似点が多いように見えますが、お互いに違う所はありますか？

・形式は国ごとに特異な点があるけれど根源的な精神は似ているように思います。

問い 中国及び日本の舞踊にはどのようなものがありますか？

中国は多民族国家で56ある少数民族がそれぞれの伝統舞踊を持ちそれらが一緒に共存しています。よく知られている京劇もその中の一つです。隋、唐時代の舞踊、敦煌壁画舞踊等もあります。又、伝統舞踊と現代舞踊とを結合した当代舞踊もあります。中国舞踊はロシアと西洋

韓国舞踊の第一人者金梅子先生をお招きして

黛民族舞踊文化財団では、かねてより韓国舞踊の第一人者、金梅子先生に日本で御指導頂く公開レッスンを企画しておりましたが、この度金梅子先生の御了解を頂き、韓国舞踊の公開レッスンを開始することができました。

黛アートサロンにて公開レッスン

2003年 1月16日～1月21日

3月14日～3月18日

4月28日～5月2日



金梅子先生（右）のレッスン 黛アートサロンにて



サルプリを舞う金梅子先生

金梅子（キム・メジャ）先生略歴

- 1970～ 梨花女子大学舞踊家 教授
- 1982～92 (社) 韓国舞踊研究会設立 初代理事長就任
- 1993～現在 北京舞踊大学朝鮮舞踊科 名誉教授
- 1996～現在 UNESCO IFPC協力機関 韓国代表
- 1997～現在 東京にて梅の会設立ならびに講義

冷泉家時雨亭文庫祝賀会に出席して

平成14年11月9日、冷泉家、時雨亭文庫・冷泉布美子名誉会長は、文化庁長官表彰を受けられ、そのお祝いと理事長就任を兼ねた祝賀会が東京で開催され、犬丸理事長の代理として事務局の黛莉香が出席した。

冷泉貴実子学芸員は、故黛先生の亡き跡を立派に継承していらっしゃる事に日本の文化の美しさがあります。犬丸理事長に、困難が多い事でしょうが、がんばって下さいとお伝えくださいとの事でした。



冷泉家時雨亭文庫 右より理事長冷泉為人氏
学芸員冷泉貴実子氏、黛莉香

第9次訪日団の李文義さんからの手紙

今年7月1日から10日まで黛民族舞踊文化財団の招請により、ナシ族民間芸人の李文義と麗江青少年宮の秦国華は中国雲南省舞蹈家協会第九次訪日代表団の一員として日本に行き公演した。二人の独特の民族色のある素晴らしい舞踊は日本の各界の人々に歓迎された。

日本滞在中の10日間、雲南省の各地から参加した民間芸術家たちは日本及び韓国のアーティストたちとともに日本の東京都、岩手県、新潟市、藤沢市、群馬県新田町、長野県松本市などですぐれたプログラムを演出した。雲南省の民間芸術家たちは雲南省のイ族、チベット族、ラフ族、ナシ族の舞踊と生活習俗を表現



トンパ祭祀「ディセラ」参加者

した《金色の神様ガエル》、《ローパ舞》、《楽悠悠》、《黒帽舞》、《尼西情舞》、《真紅の瑪櫻花》等の舞踊を選び、観客から好評を得ることができた。訪日団が予定した曲目は五つだったが、アンコールに答えて2曲が追加された。李文義と秦国華の共演した《ローパ舞》と《金色の神様ガエル》等の民族舞踊は日本の観客たちのナシ族に対する理解の一助になるであろう。

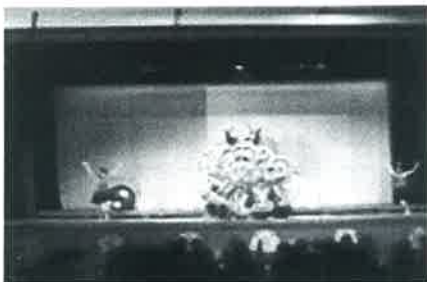
(手紙に同封された麗江日報の記事)



ナシ族のトンパの踊り

名古屋市椋山女学園高校の文化祭に少数民族の踊りを

中国雲南省舞蹈家協会との隔年交流も16年目を迎えた今年、日本中国文化交流協会から、「名古屋市の椋山女学園高校の生徒が中国少数民族の踊りを学園祭で踊りたいというので指導してほしい」との要請があったので中国雲南省の少数民族の村で取材してVTRに収めた曲目のうちから右記のものを紹介した。



学園祭にて

イ族の踊り

- a. 輪舞 月琴や笙などの民族楽器を演奏しながら踊る。
- b. パチやザルを持って踊る。大人数で踊れる。ドラに赤布をつけて踊る。

チベット族の踊り

チベット族の人々が麦打ちの労働を題材にしたもので、勤勉なチベット族の女性が 秋の収穫の時の働いている様子の踊り。ブラウスとスカート、中国では長靴。頭にはターバンを巻く。

リス族の踊り

跳竹鈴といい、娘たちが竹で作った鈴を腰につけて踊る。

皆で楽しく踊れる曲目を心がけた。



楽器を奏しながら財団視察班を出迎える基諾族（ジノ一族）の一行

財団法人

黛民族舞踊文化財団のあらまし

財団法人黛民族舞踊文化財団は、我が国伝統の民族舞踊を舞台芸術として確立し、その普及向上を図るとともに国際文化交流を行うことを目的として、昭和 61 年 3 月文部大臣から設立を許可された法人です。

財団設立後は、(1)民族舞踊普及向上のための中央における公演をはじめ、地方巡業公演を活発に行ってひろく一般にこれを紹介し、また研究成果の発表会等を開催し、(2)後継者の育成を目的として民族舞踊の研究者（音楽、振付けを含む）、舞踊家のための研究会、研修会等を開催して創造活動を奨励すると共に技能の向上を図り、(3)日本各地および中国・韓国・東南アジア諸国の民族芸能を取材し、その研究を行うと同時に収集した資料を整理保存して一般にこれを提供し、将来は資料館を設立して一般の利用に供することを計画しています。また、

(4)世界各国にはそれぞれ民族舞踊団が国家の庇護のもとに活動していますが、これら舞踊団との交流や、中国・韓国・東南アジア諸国の民俗芸能伝承者たちとの交流等、幅ひろい国際交流を推進して相互の連携と研鑽につとめ、(5)民族舞踊、民族芸能に関する資料および研究成果等の出版物を刊行して、民族舞踊に対する理解を深める目的達成のため、年次を追って事業を充実していきたいと考えております。

しかしながら、事業を発展充実させていくためには、何と申ししましても経済的基盤を確立する必要があることを痛感いたしております。

当財団が、真にわが国を代表する民族舞踊の振興団体として育てまいりますよう、財団の事業目的をご理解くださり、各界の方々の御支援を心からお願い申し上げる次第です。

つきましては、当財団には賛助会員規定を設けておりますので、皆様にはぜひ賛助会員として、会費により御支援を賜りたく、お願い申し上げます。

民族舞踊文化 No.15

2003 年 6 月 3 日発行 発行人 犬丸 直 編集人 大野 晃

〒107-0052 東京都港区赤坂 3-10-3 黛ビル 4 F

Tel 03-3583-3633(代)
Fax 03-3583-3639

財団法人 黛民族舞踊文化財団

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

MAYUZUMI BLD 4F, 3-10-3, AKASAKA, MINATO-KU, TOKYO